

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	栄養指導 21d209	担当教員 (実務経験)	藤澤 雅子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科栄養指導に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	患者の食生活の把握、齲蝕予防や歯周疾患治療のための食生活指導、慢性疾患をかかえた高齢者、寝たきり者への食事指導について学ぶ。				
到達目標	各栄養素の基礎知識を学び、三大栄養素の代謝メカニズムを述べるができる。対象者にあつた食事を指導することができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版)・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート点20%		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①講義は、栄養の基礎(藤澤先生)と歯と口の生化学(山内先生)に分けて行う。 ②演習は、図や表を使って理解を深める。 ③調理実習は、砂糖の少ないおやつや噛むおやつ、寝たきり者へのとろみ食、ミキサー食なども作って、試食する。(担当:大島先生)				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	歯と歯周組織の生化学 (藤澤)	結合組織		
	2	硬組織の生化学 (藤澤)	石灰化の仕組み		
	3	唾液の生化学 (藤澤)	唾液の組成と機能		
	4	ブラークの生化学 (藤澤)	ブラークの組成		
	5	ブラークの生化学 (藤澤)	齲蝕の発症機序		
	6	ブラークの生化学 (藤澤)	歯周疾患発症機序		
	7	栄養の基礎知識 (大島)	栄養素の消化・吸収		
	8	食事摂取基準 (大島)	推定エネルギー必要量、基礎代謝		
	9	食事摂取基準 (大島)	日本人の食事摂取基準		
	10	栄養素の働き (大島)	糖質栄養の意味		
	11	栄養素の働き (大島)	タンパク質の栄養の意味		
	12	栄養素の働き (大島)	脂質の栄養の意味		
	13	栄養素の働き (大島)	ビタミンの栄養の意味		
	14	栄養素の働き (大島)	無機質・水の栄養の意味		
15	食生活と食品 (大島)	望ましい食生活			

	回数	履修主題	履修内容
	16	食べ物と健康 (大島)	食べ物の物性
	17	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－離乳食
	18	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－離乳食
	19	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－間食
	20	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－間食
	21	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－きざみ食
	22	食生活と健康 (大島)	ライフステージ別の栄養と調理実習－きざみ食
	23	生体の構成要素 (藤澤)	細胞の役割、生体における水
	24	生体の構成要素 (藤澤)	生体構成成分と栄養素
	25	生体における化学反応 (藤澤)	消化と吸収
	26	生体における化学反応 (藤澤)	代謝
	27	糖質と脂質の代謝 (藤澤)	エネルギーの生成
	28	タンパク質とアミノ酸代謝 (藤澤)	アミノ酸の代謝分解とタンパク質の合成
	29	生体における恒常性の維持 (藤澤)	血液の緩衝能と血糖値
	30	総括 (藤澤)	まとめ

授業科目 (科目ID)	歯科保健指導法Ⅱ 21d210	担当教員 (実務経験)	西里 姫加 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科保健指導業務を実施しており当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	個人や集団を対象とした歯科保健指導の演習・実習を行い、歯科保健における問題点とその解決法を学ぶ。				
到達目標	集団対象者別のその特徴を理解し、保健指導内容に反映させ適切な援助ができる。対象別に各種教材が作成でき、作成要領や活用法を述べる事ができる。専門職として正しく情報が収集でき、問題抽出ができた上で解決方法を述べる事ができる。主な歯科疾患に対する処置の流れ、手順を述べる事ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) ・使用器材:スケーラーセット、顎模型、グローブ、マスクなど				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習態度・技能点10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	①講義、演習、実習を同時進行で行う。②爪、頭髮など身だしなみを整えて臨むこと。アクセサリー、時計は外す。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Ⅲ編 2章歯科衛生過程の各構成要素(西里)	2章-4.歯科衛生介入(実施)		
	2	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入1-①(西里)	1章-①妊産婦期指導 妊産婦と授乳期の食生活指導1		
	3	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入1-①(西里)	1章-①妊産婦期指導 3.妊産婦期の歯科保健介入(演習)		
	4	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入1-①(西里)	1章-①妊産婦期指導 妊産婦と授乳期の食生活指導のまとめ		
	5	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入2-②(西里)	1章-②乳児期 口腔の特徴と離乳食		
	6	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入2-②(西里)	1章-②乳児期 2.乳児期の歯科保健介入(演習)		
	7	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入2-②(西里)	1章-②乳児期 口腔の特徴と離乳食指導のまとめ		
	8	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入3-③(西里)	1章-③幼児期 食生活の特徴・間食		
	9	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入3-③(西里)	1章-③幼児期 3.幼児期の歯科保健介入(演習)		
	10	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導②-1(西里) Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入3-③	4章-②口腔機能の発達に関する指導 1章-③幼児期 食生活の特徴・間食まとめ		
	11	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入4-④(西里)	1章-④学齢期 口腔・食生活の特徴		
	12	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入4-④(西里)	1章-④学齢期 4.学齢期の歯科保健介入(演習)		
	13	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入4-④(西里)	1章-④学齢期 口腔・食生活の特徴 まとめ		
	10	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入5-⑤(西里)	1章-⑤青年期 口腔・食生活の特徴		
11	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入5-⑤(西里)	1章-⑤青年期 5.青年期の歯科保健介入(演習)			
12	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入6-⑥(西里)	1章-⑥成人期 生活習慣予防と栄養指導			
13	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入6-⑥(西里)	1章-⑥成人期 6.成人期の歯科保健介入(演習)			
14	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入7-⑦(西里)	1章-⑦老人期 老人期の低栄養と食生活指導 摂食嚥下障害と栄養			
15	Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入7-⑦(西里)	1章-⑦老人期 7.老人期の歯科保健介入(演習)			

履修主題・履修内容	16	Ⅲ編 4章歯科衛生介入としての歯科保健指導②-1(西里) Ⅳ編 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入7-⑦	4章-②口腔機能の低下に関連する指導 1章-⑦老人期 7.老人期の歯科保健介入(演習)
	17	Ⅲ編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報発信 Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入1-①(西里)	2章-③認知機能の評価 2章-①要介護高齢者 一般的・口腔の特徴
	18	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入1-①(西里)	2章-①要介護高齢者 食生活指導
	19	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入1-①(西里)	2章-①要介護高齢者 1.要介護高齢者の歯科保健介入(演習)
	20	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入2-②(西里)	2章-②障がい者 食生活の特徴と栄養
	21	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入2-②(西里)	2章-②障がい者 3.障がい者の歯科保健介入(演習)
	22	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入3-③(西里)	2章-③大規模災害被災者 歯科保健医療のためのアセスメント
	23	Ⅳ編 2章配慮を要する者への歯科衛生介入4-③(西里)	2章-③大規模災害被災者 災害時の多職種連携について
	24	Ⅴ編 1章地域歯科保健活動における健康教育①(藤澤)	1章-①健康教育の進め方 教材の活用
	25	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-1(藤澤)	小学校における健康教育 学習指導案一計画書の検討(演習)
	26	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-2(藤澤)	小学校における健康教育 学習指導案一教材・シナリオの作成(演習)
	27	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-3(藤澤)	小学校における健康教育 総合練習(演習)
	28	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-4(藤澤)	小学校における健康教育 総合演習第1次評価
	29	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-5(藤澤)	小学校における健康教育 総合演習の再検討
	30	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド②-6(藤澤)	小学校における健康教育 総合演習第2次評価
	31	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-1(藤澤)	障がい者施設における健康教育 学習指導案一計画書の検討(演習)
	32	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-2(藤澤)	障がい者施設における健康教育 学習指導案一教材・シナリオの作成(演習)
	33	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-3(藤澤)	障がい者施設における健康教育 総合練習(演習)
	34	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-4(藤澤)	障がい者施設における健康教育 総合演習第1次評価
	35	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-5(藤澤)	障がい者施設における健康教育 総合演習の再検討
	36	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド⑤-6(藤澤)	障がい者施設における健康教育 総合演習第2次評価
	37	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド①-1(藤澤)	保育園における健康教育 学習指導案一計画書の検討(演習)
	38	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド①-2(藤澤)	保育園における健康教育 学習指導案一教材・シナリオの作成(演習)
	39	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド①-3(藤澤)	保育園における健康教育 総合練習(演習)
	40	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド①-4(藤澤)	保育園における健康教育 総合演習第1次評価と再検討
	41	Ⅴ編 2章地域歯科保健活動のフィールド①-5(藤澤)	保育園における健康教育 総合演習第2次評価
42	総合演習1(藤澤)	臨地・臨床報告会のスライド作成	
43	総合演習2(藤澤)	臨地・臨床報告会の口述文作成	
44	総合演習3(藤澤)	臨地・臨床報告会のプレゼンテーション練習1	
45	総合演習4(藤澤)	臨地・臨床報告会のプレゼンテーション練習2	

授業科目 (科目ID)	医療保険事務 21d211		担当教員 (実務経験)	工藤 由加里 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、医療保険事務に従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	受付業務の1つである歯科医療事務管理について学ぶ。					
到達目標	保険上の算定の原則を理解し、診療行為の点数と一部負担金の計算ができる。診療録(症例)への記載事項を理解しパソコンを使用して入力することができる。					
テキスト・参考図書等	・「歯科診療報酬の解説と算定の手引き」(日本医療事務協会) ・必要時プリント配付					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート点・レセプト作成20%			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	講義で習得した知識を基に、パソコンを使用してレセプトの作成演習を行う。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	医療保険制度の基礎知識	保険の種類と一部負担割合、保険点数について			
	2	初期う蝕の治療(C処置)	治療の概要、算定方法、レントゲン撮影			
	3	歯髄炎の治療(Pul)	病名と処置の流れ、麻酔、投薬			
	4	歯根膜炎の治療(Per)	病名と処置の流れ、外科処置			
	5	歯周疾患(P、G)	病名と処置の流れ、各種指導料の算定			
	6	その他の口腔内疾患の治療	粘膜病名、顎関節病、乳歯に多い病名			
	7	欠損補綴(MT ブリッジ)	支台歯形成～ブリッジ装着まで			
	8	欠損補綴(MT 有床義歯)	補綴診断～義歯装着まで(PD、FD)			
	9	裏装、義歯破損、義歯不適合	その他有床義歯に関わる病名と処置			
	10	脱離・再装着	冠、ブリッジの脱離再装着、修理、未来院			
	11	レセプト業務	レセプト請求業務とは？総括、福祉医療			
	12	カルテ症例:保存修復	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習1			
	13	カルテ症例:クラウン・ブリッジ	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習2			
	14	カルテ症例:歯周疾患	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習3			
15	カルテ症例:口腔外科	診療録の症例に従って、診療報酬明細書の作成練習4				

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	看護学概論・救急処置 21d212		担当教員 (実務経験)	三上 剛人 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師・救急救命士として、看護・救急処置に従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	看護を学習することにより、患者の口腔内のみならず、身体的変化を早期に発見し、急変場面に対応できる知識・技術を身につける。				
到達目標	緊急時の患者管理法を習得する。歯科衛生士の役割と看護の関わりを述べることができる。				
テキスト・参考図書等	随時、プリント配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②実技試験20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	①講義と演習を交えながら進める。 ②私語禁止。 ③身だしなみを整える。 ④演習は動きやすい服装で受講すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	救急看護の基本 (三上)	救急医療と看護の特色		
	2	救急時の主な症状と看護1 (三上)	呼吸、循環、体液、意識		
	3	救急時の主な症状と看護2 (三上)	心肺停止		
	4	救急時の主な症状と看護3 (三上)	ショック		
	5	救急時の主な症状と看護4 (三上)	意識障害、頭痛、めまい、他		
	6	救急時の主な症状と看護5 (三上)	発熱		
	7	救急時の主な症状と看護6 (三上)	呼吸困難		
	8	救急時の主な症状と看護7 (三上)	胸痛不整脈		
	9	救急時の主な症状と看護8 (三上)	腹痛、嘔吐		
	10	救急時の主な症状と看護9 (三上)	尿の異常		
	11	救急時の主な症状と看護10 (三上)	外傷		
	12	救急時の主な症状と看護11 (三上)	褥瘡、創傷、治癒		
	13	救急時の主な症状と看護12 (荒谷)	特別病態(中毒、熱傷、その他)		
	14	救急時の主な症状と看護13 (荒谷)	輸液管理、その他の処置(ドレーン等)		
15	心のケア (三上)	ストレス、危機管理PTSD、Dental Phobia			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	歯科診療補助法Ⅱ 21d213	担当教員 (実務経験)	伊藤 彩 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、歯科治療や手術の補助などをしており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	臨床における様々な状況に対応できる能力と技術を習得する。				
到達目標	歯科治療の術式を理解し、適切に器具・材料を準備できる。エックス線写真準備を的確に操作できる。模型作製や暫冠被覆冠の作製ができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版) ・使用器材: スケーラーセット、顎模型、グローブ、マスクなど				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート点20%		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①相互実習を中心に行う。 ②頭髮・身だしなみを整える。 ③時計・アクセサリ類は外す。 ④白衣に着替える時、下着・パンストを着用する。 ⑤時間厳守。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	4章 ⑦矯正治療時の診療補助	矯正治療の例と診療補助の流れ(装置に使用する器具・材料の名称)		
	2	3章 ⑤画像検査	1.エックス線写真撮影 2.口腔内写真 3.画像管理		
	3	1)口腔法エックス線	相互実習1:口腔法エックス線撮影実習と画像管理実習		
	4	2)パノラマエックス線	相互実習2:パノラマエックス線撮影実習と画像管理実習		
	5	3)口腔内写真	相互実習2:口腔内写真撮影実習と画像管理実習		
	6	5章 ②模型作製1	2.歯科用石膏の練和 2)スタディモデル作製実習1(相互実習)		
	7	5章 ②模型作製2	2.歯科用石膏の練和 2)スタディモデル作製実習2(相互実習)		
	8	5章 ②模型作製3	2.歯科用石膏の練和 2)スタディモデル作製実習3(相互実習)		
	9	5章 ②模型作製4	2.歯科用石膏の練和 2)スタディモデル作製実習4(相互実習)		
	10	5章 ②模型作製5	3.歯科用石膏の管理方法		
	11	4章 ⑤補綴治療時の診療補助1	3章-⑧歯肉圧排 5章-①印象採得		
	12	4章 ①印象採得1	3.寒天印象採得の補助 模型作製実習+歯肉圧排1		
	13	4章 ①印象採得2	3.寒天印象採得の補助 模型作製実習+歯肉圧排2		
	14	4章 ①印象採得3	3.寒天印象採得の補助 模型作製実習+歯肉圧排3		
15	4章 ①印象採得4	4.合成ゴム質印象採得の補助 模型作製実習+歯肉圧排1			

	回数	履修主題	履修内容
	16	4章 ①印象採得5	4.合成ゴム質印象採得の補助 模型作製実習+歯肉圧排2
	17	4章 ①印象採得6	1)個人トレー・個歯トレーの作製
	18	5章 ④成形歯冠修復の補助1	即重重合型レジン1 既成緩を用いたテンボラークラウン(前歯・臼歯)
	19	5章 ④成形歯冠修復の補助2	即重重合型レジン2 印象採得によるテンボラークラウン(ブリッジ)
	20	5章 ④成形歯冠修復の補助3	即重重合型レジン3 印象採得によるテンボラークラウン(冠)
	21	4章 ⑧小児歯科治療時の診療補助1 4章 ③共同動作 5. 器具の受け渡し1	3章 ⑦ラバーダム防湿(マネキン実習) ②歯内療法時の診療補助(根管治療+根管充填)1(マネキン実習)
	22	4章 ⑧小児歯科治療時の診療補助2	3章 ⑦ラバーダム防湿(2歯露出)+隔壁法1(相互実習1)
	23	4章 ⑧小児歯科治療時の診療補助3	3章 ⑦ラバーダム防湿(3歯露出)+隔壁法2(相互実習2)
	24	4章 ③共同動作 5. 器具の受け渡し2	②歯内療法時の診療補助(根管治療+根管充填)2(相互実習)
	25	Ⅱ編 1章主な全身疾患とその対応1	①主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点1
	26	Ⅱ編 1章主な全身疾患とその対応2	①主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点2
	27	2章 ①周術期における歯科診療の補助	2章 ①周術期口腔機能管理の概要 2.病態の把握 3.治療時の対応
	28	Ⅱ編 3章歯科訪問診療にける対応1	①歯科診療補助 2.歯科訪問診療の流れ1
	29	Ⅱ編 3章歯科訪問診療にける対応2	①歯科診療補助 2.歯科訪問診療の流れ2
	30	附一臨床検査データシート	血液学・生化学・免疫学検査・病態を代表的な検査との関連、他

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	臨床・臨床実習Ⅱ 21d214	担当教員 (実務経験)	松本 崇嗣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として、臨床実習指導に従事しており当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	12単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		時間数	540時間
授業目的	診療の補助業務実習、小児歯科・口腔外科・矯正歯科など専門的な業務の実習、幼児・高齢者・障害者を対象とした歯科衛生教育の実習を通して、歯科衛生士として必要な資質能力を高める。				
到達目標	歯科医師、歯科衛生士が行う診療の補助、介助ができる。使用した器具、器材の消毒、滅菌、保管と管理ができる。ライフステージに合わせた歯科衛生教育ができる。				
テキスト・参考図書等	・歯科医院実習:臨床実習帳、スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど ・保育園、高齢者施設:臨床実習帳、顎模型、口腔ケアセット、指導用教材など				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	*評価基準 A:優れている(助言なしでもほぼできる) B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる) C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足) *評価項目 ①医療従事者としての基本姿勢、態度 ②月別実習項目の知識 ③月別実習項目の技能 ①～③をそれぞれ評価後、総合評価する:A(80～100点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	100%				
履修上の留意事項	①主に診療室での実習を中心に行う。②保育園、高齢者、障害者施設、中学校で歯科衛生教育を実施する。③体調管理に気を付ける(欠席、遅刻、早退は厳禁)。④実習生としてのマナー:清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、言葉遣い。				
履修主題・履修内容		履修主題	履修内容		
	1	臨床実習			
		①歯科医院見学実習	歯科診療の補助と介助をする。		
		②病院歯科実習	全身疾患をもった患者の歯科治療業務を実習する。		
	2	臨床実習			
		保育園実習	園児とコミュニケーションを図りながら、口腔衛生指導を実践する。		
		高齢者施設見学実習	要介護高齢者のADLを把握し、口腔ケアプランを実施する。		
		障害者(児)施設実習	障害者とふれあい、援助的なかかわりの姿勢を身につける。		
		計 83日間			

授業科目 (科目ID)	口腔ケア基礎実技 21d215		担当教員 (実務経験)	工藤 由加里 歯科衛生士とし、訪問口腔ケアに従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	お口の専門家として「口腔ケア」の必要性を理解し、施設、在宅での多職種と連携した「口腔ケア」「口腔リハビリ」の支援について学ぶ。					
到達目標	高齢に伴う口腔内の変化と摂食嚥下障害との関連性が述べることができる。口腔内の状況に合わせた適切な口腔ケア技術を行うことができる。					
テキスト・参考図書等	・「口腔ケア基礎知識」(日本口腔ケア学会) ・必要時プリント配付					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③実習技能点10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	10%					
履修上の留意事項	①講義:高齢者、障がい者の口腔ケアの基礎知識～疾患別応用技術。②相互実習で、口腔乾燥や麻痺を体験し口腔ケアグッズの使用方法を理解。③開口困難、意思疎通困難、出血傾向、非経口摂取の口腔ケア。④地域包括ケアシステム時代の介護予防のための口腔ケア。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	口腔のしくみと働き (工藤)	高齢に伴う口腔組織の加齢変化、全身疾患と口腔観察のポイント			
	2	口腔ケアグッズ (工藤)	歯ブラシ、歯磨剤、歯間ブラシ、補助清掃道具、口腔保湿剤、吸引器具			
	3	うがいができない、水分保持困、むせる (工藤)	口腔機能の理解			
	4	相互実習① (工藤)	コミュニケーション、リラクゼーション、ポジショニング、口腔内観察、口腔アセスメント			
	5	義歯装着、相互実習② (工藤)	義歯の構造、清掃、管理、着脱、義歯安定剤 コミュニケーション、リラクゼーション、口腔内観察、口腔ケア、うがい吐き出し			
	6	出血傾向、相互実習③ (工藤)	歯肉出血、出血傾向 コミュニケーション、リラクゼーション、ポジショニング、口腔内観察、口腔ケア、口腔乾燥			
	7	口腔乾燥、相互実習④ (工藤)	非経口摂取の理解 コミュニケーション、リラクゼーション、口腔内観察、うがいできない、吸引器具使用			
	8	口腔機能訓練、相互実習⑤ (工藤)	機能的口腔ケアを学ぶ。口腔リハビリ、摂食嚥下障害の間接訓練			
	9	食形態と口腔ケア、相互実習⑥ (工藤)	摂食障害のある人の口腔ケア留意点、摂食嚥下障害の評価方法と検査方法			
	10	その他 (工藤)	在宅、介護認定、認知症、終末期			
	11	口腔機能向上プログラム1 (藤澤)	口腔機能向上プログラム立案			
	12	口腔機能向上プログラム2 (藤澤)	健康教育に必要な教材・シナリオ作成			
	13	口腔機能向上プログラム3 (藤澤)	健康教育の総合練習1			
	14	口腔機能向上プログラム4 (藤澤)	健康教育の総合練習2			
15	口腔機能向上プログラム5 (藤澤)	健康教育の評価				

